

内視鏡室におけるCOVID-19感染対策に関する取り組み

独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
看護師 ○大安 正俊、太田 律子
医師 山口 太輔

【はじめに】

近年我が国では新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されてきた。日本消化器内視鏡学会の提言では、消化器内視鏡診療に関連したCOVID-19の発生・拡大の可能性を危惧しており、消化器内視鏡診療における感染リスクを考慮し、確実な感染対策が必要とある。当院では2020年度内視鏡検査を4543件実施しており、様々な消化器内視鏡診療を行っている。当院全体のCOVID-19感染対策マニュアルはあるが内視鏡室独自のマニュアルは存在していなかった。

安全な消化器内視鏡診療を継続するため、内視鏡看護師やクラーク、看護助手（以下、スタッフ）が感染対策を意識した行動をとれるよう基準を示す必要があると考え、ガイドライン作成とその標準化に取り組んだ。

【目的】

内視鏡室におけるCOVID-19感染対策に関するガイドラインを作成することで、感染対策方法を明確にして感染対策に準じた行動ができる。

【方法】

1. 日本消化器内視鏡学会や日本感染症学会にて示されているガイドラインを参考に、独自の内視鏡室の感染対策に関するガイドラインを消化器内科医師や院内感染対策室に助言を受けながら作成する。
2. ガイドラインをスタッフへ伝達して周知を図り、対策に準じた行動を統一する。

【結果】

感染対策に関するガイドラインを作成してスタッフへ感染対策方法の周知を図った。その後、受付で患者への検温や手指消毒の促し、感冒症状を有する場合の自己申告の呼びかけ、スタッフによる問診等でのトリアージを実施した。また、検査介助時の個人用防護具（以下、PPE）・上部内視鏡時のN95マスク装着の徹底、スコープの運搬のための清潔・不潔導線の明確化、スコープの洗浄方法、処置具の取り扱い方法、環境整備方法等の統一することができた。